

## 答申書（素案）

## 1 総括的事項

- （１）当該事業は、既存発電施設を高効率な施設へ更新する計画であるが、大規模な火力発電施設を設置する事業であり、工事の実施や施設の稼働に伴う環境への影響が懸念される。環境影響評価の実施にあたっては、関係地域を含めた周辺地域の環境について適切な調査・予測及び評価を行うとともに、必要な環境保全措置についても検討すること。また、当該事業の実施にあたっては、事業の影響を受ける関係地域の住民へ丁寧な説明を行うこと。
- （２）同時期に事業実施区域周辺で、他事業者によるバイオマス発電施設の建設が予定されているため、可能な限り情報収集を行い、大気質及び水質等への複合的な影響について予測・評価を行うよう努めること。 【資料２－No. ４、５、８】
- （３）環境影響評価の実施において、環境への影響に関し新たな事実が判明した場合は、必要に応じて選定した項目及び手法を見直し、調査・予測及び評価を行うこと。

## 2 個別事項

## （１）大気質について

施設の稼働に伴い発生する窒素酸化物の調査地点の選定理由を、準備書において分かりやすく示すこと。また、事業による影響を受ける区域を適切に把握し、調査・予測及び評価を行うこと。 【資料２－No. 11、12】

## （２）水環境について

事業実施区域の周辺海域はＣＯＤの環境基準が未達成であることから、施設の稼働に伴う排水の影響を検討するため、富栄養化に係る全窒素や全リンの調査項目の追加を検討すること。 【資料２－No. ５、６、９】

## （３）動物について

事業実施区域及びその周辺において、環境省が絶滅危惧ⅠＡ類に指定しているチゴモズが確認されていることから、適切に調査・予測及び評価を行い、必要な環境保全措置を検討すること。 【資料２－No. ２、３】

## （４）緑化について

発電施設の更新に伴い、緑地であるはまなす公園が廃止される計画であり、また、樹林地及び草地の改変もあることから、緑化計画について、準備書において具体的に示すこと。

【資料２－No. １】

## ３ その他事項

環境影響評価準備書の作成にあたっては、文章や図の作成において工夫し、分かりやすい図書となるよう留意すること。